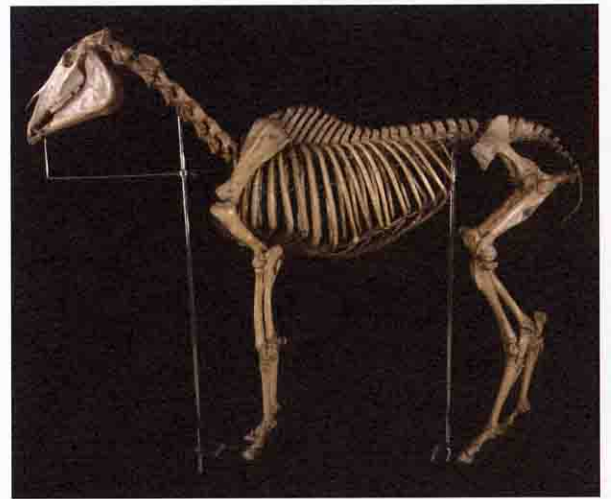


3. 学習院の愛馬「乃木号」

学習院大学史料館の収蔵史料の中でひととき大きく、そして異彩を放つのが馬の骨格標本「乃木号」です。乃木号はその名の通り、学習院院長乃木希典ゆかりの馬です。日露戦争旅順攻略後の会見(明治38年(1905))でロシアのステッセル將軍から乃木陸軍大将へ贈られた馬(寿号)を父とし、体高約145センチで、多くの兄弟のうち最も寿号に似ていたと伝えられています。乃木院長死去後も学習院の厩舎で馬術練習用に飼育され、昭和12年(1937)8月に27歳で死ぬまで、「のぎさん」の愛称で親しまれていました。現在、キャンパスの馬場北側に乃木号を偲ぶ石碑がたっています。

卒業生の話では、かつて骨格標本「乃木号」はカーテン付のケースに入っていて、展示する際には恭しくそれを開けていたそうです。カーテンの奥にちょっと神秘的にたたずんでいたという感じでしょうか。今では新調されたケースの中で、まさに「由緒正しい馬の骨」らしくその勇姿を示しています。

(野尻泰弘)



乃木号骨格標本



ありし日の乃木号



乃木号碑

